



(題字は初代学長 山田守英氏)

# 第 137 号

平成21年6月1日

編集 旭川医科大学  
発行 教務部学生支援課



桜模様 (大学病院)

(写真撮影：学生支援課)

## 危機をチャンスに

～新入生に寄せて……………	吉田 晃敏…………	2
ようこそ、旭川医科大学へ……………	本間 龍也…………	4
看護学修学への出発を祝して……………	作宮 洋子…………	5
平成21年度医学科入学者名簿……………		6
平成21年度看護学科入学者名簿……………		7
平成21年度看護学科第3年次編入学者名簿……………		7

## 新入生を迎えて

医学科第6学年 岸本めぐみ…………	8
看護学科第4学年 谷口 恵理…………	8

## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 石田久美子…………	9
医学科第1学年 三好 雄大…………	9

医学科第1学年 浅井 霞…………	10
医学科第1学年 武藤 学…………	10
看護学科第1学年 片川俊太郎…………	11
看護学科第1学年 山口あずさ…………	11

外国人留学生在籍者一覧……………	12	
平成21年度大学院入学者名簿……………	12	
就任のご挨拶……………	稲葉 佳江…………	13
平成21年度 入学式……………	14	
平成20年度 学位記授与式……………	14	
平成21年度 医学科・看護学科新入生合同研修会……………	15	
教員の異動……………	16	
医大祭2009のご案内……………	16	



## 危機をチャンスに ～新入生に寄せて

学 長 吉 田 晃 敏

旭川医科大学に新しく入学された、医学科第1学年102名の皆さん、看護学科第1学年60名の皆さん、同じく看護学科第3学年編入生10名の皆さん、ご入学おめでとう。本学を代表し、心から祝福し歓迎します。

皆さんは今、大きな希望と期待を胸に、ここ旭川医科大学の門をくぐって来られました。医師を志す人、看護職者を目指す人、あるいは研究者を目指す人もいるでしょう。合計172名の新入生それぞれが、172通りの夢を描いている事と思います。今日からは、ここ、旭川医科大学が、皆さんの「夢の舞台」です。共に学び、共に議論し、共に励まし合い、そして時に助け合いながら、21世紀を担う「良識ある医療人」を目指して、切磋琢磨してほしいと願います。

皆さんが入学した、この2009年という年は、「新型インフルエンザ」が発生した年として、記憶に刻まれる事になりそうです。感染爆発＝パンデミックを阻止すべく、世界中の医療人たちが、患者の治療にあたり、ワクチンの開発等にしのぎを削っています。今や、かつてないほどに、医師の力が求められているのです。

世界は、医学の進歩があったからこそ、ここまで発展を遂げてきました。今回もきっと、医療人たちの強い力で、世界はこの難局を乗り切ることでしょう。このように、かつてないほどに医師が求められている時代にあって、残念ながらわたしたちの日本は、医師が足りないという危機的な状況に直面しています。なかでも、ここ北海道における医師不足は極めて深刻です。

「お医者さんがいないんです。先生なんとかして下さい。」地域住民の皆さんから寄せられる、そんな切実な思いに突き動かされて、私は学長就任以来、北海道における医師不足・看護師不足の解消を、最も優先すべき課題に掲げてきました。皆さんご承知の通り、ここ旭川医科大学は、「地域医療に貢献する医療人」を育てるために設立された大学です。私

はその第一期生で、以後、多くの卒業生たちが、「高い志」を持って、地域医療の最前線で活躍してきました。ところが、医師の研修制度自体の改定など、医療を取り巻く様々な法改正などもあって、今や、大学病院でさえも医師・看護師を確保するのが難しいというのが、偽らざる現実です。

そこで本学は、地域医療に貢献する医療人を確保するため、抜本的な入試改革に踏み切りました。政府が方針を転換し、医師増へと舵を切ったタイミングをとらえて、医学科では一気に定員を12名増員。加えて、北海道の地域医療に貢献する医療人を増やしたいという思いから、「道北・道東枠」や「AO北海道枠」などの、本学独自の「地域枠」を設けました。その結果、本年度は、医学科102名の入学生のうち、実に72名が、北海道出身者となっています。北海道出身者が70パーセントを超えたのは、最近20年間の中では無かった事です。

入試制度に加え、今回カリキュラムについても抜本的な改革を行いました。丸二年間・数百時間の討議を経て組み立てた、皆さんのためのカリキュラムが、本年度からスタートしています。

まず看護学科ですが、主に三つの大きな変革を行いました。第一は、「早期体験実習」の導入です。1年生の5月には、医学科と合同で、2年生の夏には、「医療保健福祉施設の現場」を体験します。この早期体験実習では、地域貢献への関心を深める事、コミュニケーション能力を磨く事を目指しています。

第二は、看護実践力の強化を目指した「実習時間の増量」です。臨床、臨地の実習を、充実させました。第三は、専門知識を学ぶベースとなる科目の充実です。「対人関係」、「家族看護」、「医療安全」、「がん看護」、「国際保健看護」など、枠にとらわれない形の、幅広い知識を学べる機会を設けました。

一方の医学科では、基礎教育、基礎医学、臨床医学という三つの柱に加えて、第四の柱として、「共通科目」と呼ぶ、医師になるための目的意識や、職業・倫理観を養う科目を整備しました。これらを軸

に、「自学自習の学習態度」を養うチュートリアル教育、早期体験実習、健康弱者のためのプログラムなど、独自のカリキュラムが切れ目なく配置されています。

チュートリアル教育とは、問題解決型の、少人数グループ学習です。今後6年間、このチュートリアル教育を通じて、①情報を収集する力、②整理をする力、③相手を理解させる発表力など、私は「人前力」と呼んでいます。この力を十分に身につけてほしいと願っています。

「早期体験実習」では、医療の現場に直接触れ、実際に患者さん、あるいは施設入所者の方々と会話する事になります。この実習は、医師へのモチベーションを高めると同時に、自分自身が将来、「どのような医療人に成るべきか」を考える絶好の機会となるはずで

す。また医師には、「研究者としての視点」も極めて重要です。未来の医学・医療を拓く研究者となる方を一人でも多くつくりたいという思いもあって、少人数で研究室に入り、医学の進歩に必要な研究について、教員と共に取り組む事ができる「医学研究」という科目をつくりました。現場での実習とは違う、新たな緊張感を得る貴重なチャンスとなるはずで

す。以上、新たな入試制度と新カリキュラムの整備という大きな二つの改革について、その概略を紹介しました。学ぶ環境は整っています。

あとは皆さん次第です。

医師、そして看護師が不足しているこの深刻な状況の中で、皆さん一人一人が、文字通り、光り輝く「希望の星」です。だからこそ、私は申し上げたい。周囲の期待、地域から寄せられる熱い眼差しをしっかり受け止め、いまこそ、真剣に学んでほしいのです。本学に入学した事で、「夢が叶った」と思っているかも知れませんが、実は、夢の実現に向けて、ようやくスタートラインに立ったに過ぎません。これからが本当の試練です。先輩たちの中には、進級できなかった人もたくさんいます。医学の道の厳しさを実感するのは、これからなのです。最低限覚えなければならない事・学ばなければならない知識は、まさに膨大です。加えて、最先端医療の分野は日々進歩していますし、今回世界を襲った新型感染症のように、いつ、どこで未知の病と遭遇するかは誰にも予想ができません。

皆さんは、身につけた知識をバネに、目の前の問題に対し、自分自身で解決策を導き出す力を養わな

ければなりません。医学の世界に身を投じた以上は、一生涯、勉強なのです。私自身も、毎日が勉強の日々です。大学には、真剣に学ぶ学生諸君をサポートする体制は十分に整っています。専門分野から地域医療の問題まで、図書館には様々な情報が集約されています。ネット環境も整備されている「学生サロン」も、ぜひ活用してください。私が第一期生として学んだ頃とは比較できないほど、設備は充実しています。真剣に学び、高い知識と技術を身につけた医療人として、一日も早く活躍してほしいと願っています。とはいえ、仮に、最高の技術を身につけたとしても、それがすなわち、最良の医師たり得るかと問われれば、答えは、「ノー」です。

患者さんとうまく向き合い、どんな方針で治療に臨むのか。そこで問われてくるのは、実は、人間として、最も基本的な能力、「コミュニケーションする力」です。たとえば、挨拶ひとつ出来るか否かが、極めて重要な問題にもなります。医師としての態度ひとつが、患者さんを笑顔にもすれば、絶望の淵にも追い込みます。そこにあるのは、他者への配慮です。落ち込んでいる友人へのささやかな心遣い、あるいは、自分のために時間を割いてくれた先輩に対する感謝など、相手を思いやるコミュニケーション能力こそ、実は医療の分野で、決して欠くことの出来ない力なのです。大学生活は、こうしたコミュニケーションする力を養う、貴重な場になるはずで

す。人を癒すのは、ある時は「技術」であり、ある時は「薬」です。しかし、他者への「配慮」があってこそ、その技術が更に生き、その薬が更に効いていくのではないのでしょうか。「医は人なり」なのです。

医療を取り巻く状況は、まさに危機的です。医師・看護職者は不足し、医療格差は拡大し、自治体病院をはじめ多くの医療機関が財政難に陥っています。

皆さん、だからこそ今、皆さんの出番なのです。世界は、あなたを待っています。

有意義な、そして充実した学生生活を是非送って下さい。

旭川医科大学は、皆さんを応援しています。

新入学生172名一人一人の活躍を、心から祈念し、学長からの、心からの歓迎と、激励の言葉と致します。



## ようこそ、旭川医科大学へ

医学科 第1学年担当 本間 龍也

旭川医科大学へのご入学おめでとうございます。

平成21年度医学科入学生の学年担当になり身が引き締まる思いです。というのは、この学年は本学にとっても大きな意味を持っているからです。地域医療の崩壊、あるいは特定の診療科での医師不足が大きな社会問題となっています。本学のある道北地域はまさにこれらの問題を抱える最前線です。今年度から、将来の地域医療を支える精鋭となるであろう学生を本学の地域枠としてこれまで以上に、また医師不足を解消するための精鋭となるであろう学生を医学部定員増分を含め迎えたからです。また、このような精鋭たちを育てるべく準備された新しいカリキュラムが今年度導入されました。大学はもちろんのこと社会からも期待された皆さんを迎えるに当たり、まず何を伝えたら良いか色々考えました。結局、当たり前のことかも知れませんが以下に述べる2点、生活のリズムを早く整えること、そして大学での学習法に早く慣れること、を皆さんに伝えることにします。

まず、生活のリズムを早く整えて下さい。生活のリズムを崩してしまいますと、講義や実習に集中できなくなり、理解不足、講義・実習内容の消化不良…、結果、試験前に大慌てとなり、最後は丸暗記して試験に臨まなければならなくなるでしょう。何も勉強せず試験直前の丸暗記だけでは、全く無意味です。また、医学科は一般の学科に比べ1年生から実習科目が多く開講され、また提出の義務付けられているレポート課題も多いです。もし体調を崩し1週間程度休んでしまいますと、その間の実習テーマや課題レポートを補うのが大変になってしまいます。休んだ分を取り戻そうとすると、肉体的にも精神的にも大変なストレスを感じ、良くなった体調も再度崩してしまうこともあるでしょう。もちろん、その間も講義や実習は待ってくれません。まさしく負の連鎖反応です。これまで見てきた学生の中で、生活のリズムを崩したため体調を崩し、思うような

学習の成果を挙げられなかったという学生を何人も見てきています。もちろん、医師を目指す上で、自己の体調を管理することも大切です。ですから、早く規則正しい生活のリズムを整えて下さい。

次に、早く大学での学習法に慣れて下さい。高校、あるいは予備校等での講義は、本学の入試合格に的を絞った内容だったと思います。教員が出す課題をこなしていくことで本学に合格するための実力を養ってきたことでしょう。興味を抱いた特定の科目を自主的に学習したという経験はなかったのではと推測します。この意味で、このような学習スタイルを“受動的”な学習と呼んだりします。しかし、大学での学習法はこれと異なります。医学は日々、進歩しています。皆さんが6年間を終え医師になった後も、医学は進歩し続けるでしょう。その進んだ医学を大学卒業後は、一人で学ぶことになるでしょう。特定の先生が、まるで家庭教師のようにこれを覚えなさいよなどということはありません。目的意識を持って、必要に応じて自ら専門の先生に積極的に質問し、専門書や論文を読むことで最新の知識や技術を習得していくことでしょう。このような学習法を“能動的”な学習と呼んだりします。ちょうど皆さんが大学で学習する1、2学年は、高校までの受動的な学習法から、これから生涯通用するであろう能動的な学習法へ換える時期でもあります。知識や技術を身につけると共に、積極的に教員に質問し、自主的に教科書を読む能動的な学習法に慣れるよう努力して下さい。

生活のリズムを整え、能動的な学習法を身につけようと努力する、この2点を意識し、6年間の大学生活のスタートを切って下さい。そして最後にもう一つ、どうか面接試験の時に熱く語ってくれた志を6年間持ち続け、日本の医療を救う精鋭となって下さい。その6年間の最初の2学年、学年担当としてお手伝いさせていただきます。一緒に頑張りましょう。



## 看護学修学への出発を祝して

看護学科 第1学年担当 作 宮 洋 子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、皆さんのこれまでのご成長を育み、守ってこられたご父兄の方々のお慶びはひとしおと存じます。

この度、看護学科一年生の担任を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしく申し上げます。クラス担任としては、皆さんの顔とお名前が分かるようになりたい、少しでも皆さんに近づきたいとの思いから早期に皆さんと接する機会をもちたいと考えています。いろいろなことで、研究室をあけることもあります。できる限り面談や会話を多くするなどの対応させていただきます。皆さんの方からも、研究室においでください。

看護学は人間の生命を護り、健やかに幸福に生きることを支えるという大切な仕事です。誕生や病気、死に際し、また、人生の過程でおこる心身の変化に際し、人は人生を経験し、結果として反応をおこし、それに対してどのように行動していくのか、などについて、人への理解が必要です。これらの理解のもとに、看護することは、人の体験への洞察を深め、人を不安や恐れに至らしめぬように人を護るよう働きかけ、看護の機能を遂行していきます。

また、心身の痛みや障害をもつ人々、加齢による心身機能が弱まった人々が、自己の直面している状態を受け入れ、それを乗り越え、あるいは苦痛と共に人生を生きる時、看護は患者さんと看護分野での治療的関係を築きあげ、患者さんのなかにある生きることへの力を共に探すこととなります。

心身を病む人が人生を生ききるのを支え、護るには、診断や治療の技術とともに、心身のケアが重要不可欠です。人のさまざまな人生の経験やライフイベントの場面で、急性期の治療を受ける病院、地域での生活の場で行うリハビリテーションや社会復帰の活動などにおいても看護は深くかかわっています。

この看護の大きな使命を果たすには、看護学を修めることや自己研鑽が必要です。

皆さんは今、“看護学の船”に乗り、医療保健福祉の大海原に船出したようなものです。この4年間の“航海”では、資格を得るための「国家試験」、そして看護学を修め「卒業のゴール」に到達することが皆さんの共通の目的であると思います。さらに追加して、各自のスポーツや文化等のサークルでやってみたいこと、その他の挑戦したいことがあると思います。

航海の途上、たとえ荒波が押しよせ、嵐に襲われようと、その困難を乗り越え進んでいってほしいと思います。船の舵取りは皆さん個人それぞれが実行します。「船頭多くして、船陸に上がる」と言われますが、個性あるそれぞれがその個別を最大限に発揮させていっていいのです。さらに、他者と討論し協調し合い、力を結集して、人間を護り支える看護を実感しあって、船を進めていってください。大波や強風はあなた方をきつとよりたくましく成長させてくれることと思います。しかし、強風に耐えかねるような状況が起こった場合、担任や他の先生方、事務の方々に、すぐに、遠慮なく、SOSを発してください。ひとりで抱え込まないでください。

クラス担任は、追い風を送れるよう、何とかと工夫して応援したいですし、教員としての自己の分野の教育や研究に務めたいと考えています。共に勉強していきましょう。

希望に胸をふくらませて、夢に向かって新たなスタートをきった皆さんの姿は微笑ましく感動的です。廊下で皆さんにすれ違う時に、挨拶を交し、視線が合うようになってきていることは担任としてとてもうれしいことです。皆さんに会うと、今から約40年程前のこととなりますが、私の看護学を修めたころの様々な思い出がなつかしくよみがえってきます。私の看護学生時代の先生方には大変お世話になったので、これからは、少しでもそのご恩返しを皆さんがたにしていくことができたらと思います。

各自の学習課題への関心や興味を大切にして取り組んでいかれるよう期待しています。





平成21年度旭川医科大学入学式

## 新入生を迎えて

医学科第6学年 岸本めぐみ



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新生活がスタートし、忙しくも充実した日々を過ごしているのではないのでしょうか。入学してから早5年。気づけば最高学年になっていました。5年間の大学生活を振り返り、思うことを皆さんに伝えたいと思います。

まず、大学生活を大いに楽しんでください。大学生になりやりたいと思うことが沢山あると思います。是非、何でもチャレンジして下さい。壁にぶつかり、悩み・乗り越えたときにまた一つ自分が大きくなれます。私は1年間、水泳部のキャプテンを経験しました。60名以上もの部員をまとめていくことは大変でしたが、その分、楽しいことや感動できる出来事をたくさん経験できました。6年間は長いようで短いです。まとまった時間がある大学生活を有効に活用し、有意義な6年間にして下さい。

また、勉強や実習に対する漠然とした不安がある

と思います。私は試験の度に挫けそうになりつつも、多くの友達に助けられ乗り越えてきました。試験を皆で楽しみながら乗り越えていって下さい。そうすることで試験の度に学年の仲が深まり団結力が高まって行くと思います。5年生から始まる病院実習では机上の勉強だけでは学べない貴重な体験ができます。実際に患者さんの診察をさせてもらったり、術野に入り執刀医と同じ目線で手術見学をしたり、時に生死に立ち会う場面もありました。医師の仕事の大変さを実感すると同時に人の生命に関わるという責任の重さを再認識しました。

最後に、将来のために学中に医師もしくは看護師にとって必要な知識を身につけるのはもちろんですが、友達や先輩や後輩との関わり合うなかで、豊かな人間性を培い、患者さんや医療スタッフの方々と温かいコミュニケーションのとれる医師もしくは看護師を目指して下さい。旭医師は、ひとりひとりがとても個性あふれています。そして、ひとりひとり尊敬できる部分を持っています。ふとした時に、皆の優しさや気遣いに気づき感激することもあると思います。皆と関わることで尊敬できる部分を吸収して自身の成長につなげて下さい。

雄大な自然いっぱいの旭川でのびのびと充実した大学生活を送って下さいね☆

## 新入生を迎えて

看護学科4学年 谷口恵理



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大きく環境が変わった新しい生活や、知らない土地で初めての一人暮らし、専門的な勉強など不安なこともまだまだたくさんあるかと思いますが、入学したばかりの頃と今とではどのように変化したのでしょうか。私自身今までを振り返ってみると、これまでの3年間は本当にあっという間で、その時はまだ1年生、2年生…と聞いても、月日がたつのは驚くほど早く気がつけばもう大学生活最後の1年を迎えています。そこで、新入生のみなさんにわたしが大学生活で感じたことを伝えたいと思います。

勉強、部活、アルバイトでも何にでも自分がやってみてみたいと思ったことにはどんどん挑戦してみてください。色々なことを体験することで幅広い年齢層の

人と関わることができ、様々な刺激を得ることが出来ます。また、医療とは離れた別の世界を経験でき、自分自身も人として成長できると思います。今、みなさんのほとんどが何らかの部活に所属していると思いますが、是非部活にも精一杯取り組んでみて下さい。部活では、とくに大会などの遠征やレジャーなど卒業まで多くの時間を一緒に過ごす大切な仲間ができます！

大学では、自分で積極的に行動を起こせば様々なことにチャレンジできる環境にあるので、この大学生というチャンスを生かして有意義な大学生活を送って下さい。そして、限られた時間の中で、今できることを大切にしてみてください。1、2年生の時のことがいかに大切か後で必ず感じると思います(笑)

今年、看護科では新カリキュラムということで大変なこともあると思いますが、より深く看護について学べると思います。今、4年生の実習を前にして私たちもよく言われていますが、困ったときは決して一人で悩まず先生方や先輩に話してみてください。必ず親身になって話を聞いてくれると思います。また、時には遊びなど息抜きも大切に自分なりの充実した大学生活を楽しんで下さいね☆



## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 石田 久美子



二ヶ月前。インターネットの合格発表ページを見たときの興奮は、今でもはっきりと覚えています。まさか自分の番号があるとは思ってもいなかったのが発見したときには卒倒するかと思いました。それから慌てて新生活への準備を始

めました。

一ヶ月前。生まれ育った札幌を出て旭川に着いたとき、漠然としたどうしようもない不安に駆られたことも覚えています。慣れない土地での初めての一人暮らし。孤独という意味が身をもって感じられ、入学式までの数日がとても長く感じました。

そして今現在。入学してからまだ一ヶ月とは思えないほど濃密で充実した毎日を過ごしています。高校とはまた違った幅広い境遇の同級生たちと出会うことができたのも、医学科ならではのことでしょう。とにかく毎日が楽しく、一ヶ月、二ヶ月前の自分に

今を見せてあげたいくらいです。

新歓合宿やその後の勧誘期間では、さまざまな部活動を見学させていただきました。楽しそうな部が数多くあり、悩みましたが、私は水泳部と写真部に入部しました。どちらも初めて挑戦する部活ですが、優しく頼もしい先輩方についていきたいと思っています。

講義も本格的に始まりましたが、旭川医科大学の校風のひとつである自学自習の精神を痛感しています。今までのように受身の授業ではない、大学での学習に戸惑うことも多くありますが、初めの今は間違いを恐れずに積極的に取り組んでいきたいです。

…正直言って、未だに自分が医学生という立場にいることにはっきりとした実感はわかりません。念願であった医師への道を歩き始めたというのに、なんだか不思議な気持ちがあります。旭川で過ごすこれからの六年間の中では、きっとつらいことも厳しいこともあるでしょう。けれども「今しかできないことがある」という気持ちでさまざまな経験を積み、自身を成長させていきたいと思っています。一人前の医師として、そして一人前の人間として、患者さんにつきあえるようになるためにしっかりと勉強を続けていきたいです。

## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 三好 雄大



入学してから早くも1ヶ月が過ぎてしまいました。後期で合格が決まってから、部屋探しや引越し、入学してからも新歓合宿や部活の新歓などがいっぱい、毎日があつという間に去っていったように

感じます。講義や部活動の練習も本格的になってきて段々と忙しくなってきましたが、とても充実した日々を過ごしています。

大学での勉強は、高校までの勉強のように単に先生から教えてもらうことを理解すればよいのではなく、自学自習の態度が重要であることを実感しました。勉強についていけるのかどうか不安もいっぱいですが、大学で新しくできた友達とともに、時に助

け合い、時に競い合いながら頑張っていきたいです。

部活動は、小学校のころから続けている野球を大学でもやりたいと思い、準硬式野球部に入部しました。例年よりも野球経験のある新入生が多く入部したので、十分に練習をして東医体やリーグ戦などで良い結果を出したいと思います。もう一つ、せっかく大学に入ったのだから、何か新しいことにチャレンジしてみようと思いアイスホッケー部にも入部しました。こちらはまったくの初心者からのスタートですが、先輩たちから多くを学び、上達するように練習していきたいと思います。

旭川医科大学に入学して、幼い頃から夢見ていた職業である医師への、スタートラインに立てたということに大きな喜びを感じています。大学の6年間で医師に求められる知識や技術、十分な体力やコミュニケーション能力を身につけ、社会に立派に貢献できる医師になれるように努力を重ねていきたいと思っています。

## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 浅井 霞



小さい時から医者になりたいと思っていました。しかし、模試の成績はいつもE判定であり、受かる確率はほとんどない状態でした。それでも、せめて一年目は医学部を受けたいと思い、旭川医科大学の受験を決めました。ところが、

まさかの合格。大変驚いて、合格通知書が届くまでは信じられませんでした。

私には、大学生活でしたいことが大きく分けて三つあります。

まず、一つ目は、医師として活動するための基礎知識及び学びの姿勢をしっかりと身につけることです。やはり、知識なくして医療は成り立ちませんから、覚える勉強は基本だと思います。しかし、それだけではなく、新しいことにも興味を持って、自分で調べて理解する能力、なぜそうなるのかを推察する能力、多くの情報を、できる限り速く処理する能

力、自分の理解したことを人にわかりやすく説明する能力など、医師に必要とされるスキルも同時に身につけていきたいと思っています。

二つ目は、クラブを通じて広く、たくさんの人と関わることです。旭川医科大学の学生には、さまざまな年齢の人がいます。今まで私は、中学校、高校で同い年もしくは一つ二つしか年齢が違わない人しか関わってきませんでした。しかし、医師と言うのは同年代の人しか診察しないわけではありません。年の離れた人とも関わり、さまざまな考え方や感じ方に触れることは、きっと将来に役に立つと思います。

三つ目は、体力をつけることです。医師は体が資本といっても過言でない職業であり、体力がなければ動きません。また、社会人になってからでは忙しくなるでしょうし、積極的にスポーツをする時間をとるのは難しいと思います。学生のうちにしっかりスタミナをつけておけば、きっと後に役に立つはずです。

自分がどうしても進みたいと思った道です。だからこそ、せいっぱい大学生活を楽しみつつ、良い医師になれるように頑張りたいと思っています。

## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 武藤 学



人生と言うのは本当に面白いもので、不思議な縁(えにし)に結ばれて、自分は旭川の地で医学を学ぶことになりました。まさか北海道に、そして旭川に来る事になるとは以前は想像もしていません

でした。

市街地中心部からも見える雪山やゲレンデ、ちょっと足を伸ばせば周りには美瑛や富良野、肉に野菜に美味し過ぎるご飯、そして温かく優しい人々。都会と大自然が同居する、これまでの生活では体験する事の難しかった環境を、思う存分満喫できる今の生活に感謝する毎日です。

4月、入学式前旭川に引っ越して来た時には、周りに誰一人知り合いもおらず、初めての一人暮らし

ということもあって、夕方は少しもの寂しい気持ちになっていた事を思い出します。

それが今ほんの1ヶ月で全く正反対の楽しく、そして忙しい毎日に様変わりしました。それはこうした旭川医大ならではの環境と、やはり大学でたくさんの良い友人達に巡り会えたからに他なりません。色々な年代のそして色々な背景を持つ友人達の「道」が、今ここ旭川医大で交わっているのだということに時折感動を覚えています。

そのたくさんの友人の内の3人で、先日のゴールデンウィークに1泊2日の旅行に行ってきた。

そこで、出会って間もないもの同士とは思えない程仲の良い間柄になる事が出来たように思います。

これからの長い大学生活では、様々な方々に出会っていく事になると思います。その一つ一つの縁を大切に温めて、このような素晴らしい環境のもと、医学のみならずまだまだ未熟な自分の人間性も磨きながら、充実した大学生活になるよう頑張っていきたいと思っています。

## 旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 片川 俊太郎



「っしゃ! あった。」合格発表の日、私はパソコンの前でガッツポーズをしていました。(男子ハンドボール部内でも割りと好評なあれです。)

あれから約二ヶ月、入学式が終わり、新入生歓迎合宿が終わり、新歓コンパが終わり、部活の合宿中に風邪をひき、その風邪のせいで部活のお花見に参加できなくなってしまい、今に至っています。風邪はまだ治っていません。

今年の看護学科は、私を含めて”男の子”が十二人もいます。個人的にはとても嬉しい環境です。しかし、十二人もいると、やはり休み時間は騒がしくなってしまいます。周りから白い目で見られることもしょっちゅうですが、それも何となく心地よくなりました。

大学の講義には未だに慣れることができていません。講義の時間、講義の内容、そして何人かの波長の合わない先生達。高校までの授業とはやはり一味違うなと思いました。

提出しなければならぬレポートの量にも驚きました。小学校の頃から宿題は大嫌いで、今まであまりしてこなかったのが、正直かなり辛いです。しかし、やらなければ留年してしまうでしょうから頑張りたいと思います。

部活は、幾つか兼部することになりましたが、ハンドボール部中心で頑張っています。ハンドボール部はとても良い部です。先輩はみんな優しくイケメンです。例外の人なんていません。先輩方には何時も、とても良くしてもらっています。

入学してからの一ヶ月は、本当にあっという間でした。そしてとても充実していました。こんな生活が四年間も続くのでしょうか。とても楽しみです。

両親をはじめ、私を応援してくださっている方々への感謝の気持ち、友愛の心、そして入学式の日に再確認したあの熱い気持ちを忘れずに、学業も部活動も人一倍頑張る最高の四年間にしたいと思います。



## 旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 山口 あずさ



前期合格発表の日。前日からの不安の気持ちを抑えきれぬまま、私は発表時間の5分前に自宅のパソコンの前に座っていました。3分前、2分前、1分前…と心の中でカウントダウンするにつれ、私の心臓はますます苦しくなっていました。

そして今、私はここ旭川医科大学で充実した日々を送っています。

あの発表の日、自分の番号を見つけ、嬉しさでいっぱい泣きながら喜んだことはきっとこの先忘れることはないだろうと思います。

入学して早くも1ヶ月が経ちましたが、相変わらず毎日忙しくすごしています。初めての一人暮らしには戸惑いと寂しさばかりで、1人であるから自由だという反面、すべて自分でこなさなければならな

いという責任もあり、これからしっかりと自分を管理していけるのか不安があとを絶ちませんでした。しかし、そんな生活にも少しずつ慣れてゆき、今ではお弁当を作っていく余裕も生まれました。また、出会って間もないとは思えないほどの仲良しな友達、素敵な先輩たちもできました。

大学の講義は、高校までの板書をノートに書き写して学ぶという、いわば受動的な授業のスタイルとは違い、専門的な内容から一般教養的な内容までの幅広い分野の学習を、自分から積極的に授業に参加することの大切さを実感しています。

旭川医科大学に入学して、看護師になるためのスタートラインに立つことができました。これからの4年間、たくさんの知識や経験を積み、自分の中の「看護」の引き出しをいっぱいにしていきたいと思っています。そして、いろんな人やものとの出会いを大切に、人間としても大いに成長できるように努力を惜しまず希望に向かって日々猛進していきたいです。

## ◎外国人留学生在籍者一覧

平成21年4月1日現在

氏名	国籍	学年	期間	所属
MIREGULI, MAIMAITI (米热古丽 买买提)	中国	博士課程 第4学年	2006.4.1~ 2010.3.31	生体情報調節系
NKOUAWA, AGATHE	カメルーン	博士課程 第3学年	2007.4.1~ 2011.3.31	医学専攻
Ali Abd AL-Karim Talib	イラク	博士課程 第3学年	2007.4.1~ 2011.3.31	医学専攻
Ahmed Abdul Karim Talib	イラク	博士課程 第2学年	2008.4.1~ 2012.3.31	医学専攻
Kamel Mohamed Khatiri Mahamoud	エジプト	博士課程 第2学年	2008.4.1~ 2012.3.31	医学専攻
MA, YANJU (马 艶 菊)	中国	博士課程 第2学年	2008.4.1~ 2012.3.31	医学専攻
SUN, QIHUI (孫 啓 輝)	中国	博士課程 第1学年	2009.4.1~ 2013.3.31	医学専攻
Al-Janabi Nabaa Basim Jabbarb	イラク	博士課程 第1学年	2009.4.1~ 2013.3.31	医学専攻

## 平成21年度 大学院入学者名簿

博士課程

(平成21年4月1日現在)

氏名	専攻	研究指導教員
浅野目 晃	医学	長谷部 直 幸
石戸谷 俊 太	医学	油 野 民 雄
伊 藤 巧	医学	高 後 裕
稲 積 実佳子	医学	松 田 光 悦
大 谷 真 一	医学	石 子 智 士
岡 村 直 香	医学	高 後 裕
折 本 亮 介	医学	程 塚 明
川 井 基 史	医学	石 子 智 士
橘 内 博 哉	医学	羽 田 勝 計
糸 井 志 麻	医学	奥 村 利 勝
齋 藤 司	医学	相 澤 仁 志
澤 田 康 司	医学	高 後 裕
柴 山 尚 大	医学	松 田 光 悦
高 林 宏 輔	医学	原 渕 保 明
坪 井 尚 子	医学	石 子 智 士
中 澤 肇	医学	高 橋 雅 治
中 山 理 寛	医学	油 野 民 雄
広 島 覚	医学	程 塚 明
藤 井 瑞 恵	医学	飯 塚 一
南 幸 範	医学	大 崎 能 伸
孫 啓 輝	医学	若 宮 伸 隆
AL-JANABI NABAA BASIM JABBAR	医学	高 橋 康 二

修士課程

(平成21年4月1日現在)

氏名	専攻	研究指導教員
釜 本 由希子	看護学	加 藤 千 津 子
塩 川 幸 子	看護学	北 村 久 美 子
嶋 田 あすみ	看護学	岡 田 洋 子
杉 山 さちよ	看護学	北 村 久 美 子
鈴 木 笑 佳	看護学	北 村 久 美 子
谷 口 亜紀子	看護学	加 藤 千 津 子
千 田 章 子	看護学	岡 田 洋 子
千 葉 晴 美	看護学	岡 田 洋 子
土 山 奈津江	看護学	北 村 久 美 子
原 谷 珠 美	看護学	岡 田 洋 子
宮 部 洋 子	看護学	北 村 久 美 子
本 吉 明 美	看護学	岡 田 洋 子
森 川 由 紀	看護学	黒 田 緑
安 田 幸 代	看護学	岡 田 洋 子
小 野 聡 子	看護学	濱 田 珠 美
加 藤 久 美	看護学	濱 田 珠 美



## 就任のご挨拶

看護学講座 教授 稲葉佳江

平成21年4月1日付けで本学医学部(看護学講座)教授を拝命しました。専門は基礎看護学・看護教育学分野で、看護力育成に関する教育学的研究を手がけています。

看護系大学の急増がめざましいなか、旭川医科大学が国立大学としての威信を保ち、より一層の社会評価が得られるよう貢献したいと考えております。そのために、看護学科が大学組織の一員である自覚のもと、看護学教育・研究に精進し、看護学科の発展・向上に微力ながら専心努力する所存です。

私は、天使女子短期大学(昭和46年度卒)と聖路加看護大学(昭和53年度卒)で看護の基礎教育を受け、その後東京の看護系短期大学に助手として勤務しております。この教育経験を皮切りに、昭和58年開設の札幌医科大学衛生短期大学および平成5年開設の札幌医科大学保健医療学部看護学科の計26年間札幌大に勤務し現在に至っております。札幌大赴任当時は道内に看護系大学がなかったことから、短大時代は看護系教員諸先輩とともに「看護教育を大学で」を使命に、また大学昇格並びに大学院開設後は「大学における看護学教育に相応しい組織と人材づくり」に専心して参りました。

この間、自らも北海学園大学大学院法学研究科と北海道大学大学院教育学研究科に学び、他大学での研究活動や院生体験が現在の私の教育・研究活動、看護系大学づくりの基礎になっております。また、これらの学問領域を通して看護学という実学・応用学が陥りがちな現象・表象的認識に気づかされるとともに、さまざまな学問の基礎を看護学に応用する柔軟さと創造性を育てて頂いたと実感しております。これらの経験は大学教育に携わる者として、看護学をどのように体系化し発展させられるか、大学での看護学教育は専門学校のそれと異なり、何を特化させることで指導的人材の育成を図れるかを考える契機ともなりました。私の経験が本学看護学科開設当初からご尽力されてきた諸先生のお役に立てら

れるよう頑張りたいと思っています。

近年の看護界では、近い将来3年課程の看護師教育を4年課程に移行させたいとの一念から厚労省との検討が始まりました。一方、看護系大学では現在4年間で、看護師課程(3年課程)・保健師課程(1年課程)を必修課程とし、さらに一部では助産師課程(1年課程)を選択課程として設置しています。こうしたカリキュラムの過密化は看護力低下が緊急課題になっている看護界に大学教育の見直しを迫っております。また、少子化と低迷する経済情勢において、現代の受験生にとっては専門学校に比べて実利性に欠けるともいわれています。道内看護系大学の増加や専門学校の存在など、看護の大学教育はその歴史的経緯から医学教育では考えられない競争社会のなかにあります。この現況のなか、旭川医科大学が開学以来培ってきた評価の有り様も看護学科の発展如何にかかっているように思われます。私は、この発展の基盤は質の高い大学人の育成にあり、教育・研究のためのよりよい環境づくりにあると考えています。大学に相応しい組織・環境づくりは現任教員の育成と将来の教育・研究者育成に欠くことのできない条件であり、特に若手教員の教育・研究意欲を喚起させ、生き活きとした大学風土をつくる上での要となるといえます。

赴任直後の、学長先生が新入生に語った「夢・情熱・感動」が印象に残っております。生き活きた風土づくりのためには、我々教員自身が看護学・職の発展という夢をもって教育・研究面に情熱を注ぐことで教員自ら感動を手にすることだと思っています。なぜなら、組織体制・環境のあり方が教員の教育・研究姿勢を形成するとともに学生教育や研究活動に反映すること、そしてその成果は本学看護学科、延いては旭川医科大学の発展につながるものと考えからです。看護学科の一員として、旭医大の風土づくりに新しい仲間と協働し少しでも貢献できることを切に願っております。

## 平成21年度 入 学 式

医学科・看護学科の入学式が4月10日（金）10時から本学体育館において挙行されました。

式では、医学科102名、看護学科60名、看護学科第3学年編入生10名、合わせて172名の新入生を代表

して医学科 相澤香織さんが宣誓を行い、医学生・看護学生としての自覚を新たに、大学生活の第一歩を踏み出しました。



▲吉田学長挨拶

▼「はい！〇〇」



▲学生代表宣誓

▼「こんなんどうでしょう？」



## 平成20年度 学位記授与式

平成20年度学位記授与式が、3月25日（水）10時30分から本学体育館において挙行されました。

本学室内合奏団が奏でる調べのなか入場し、医学科101名、看護学科68名、合わせて169名の卒業生一人一人に学長から学位記が授与されました。

引き続き、博士課程6名、論文博士3名、修士課程6名にも学位記が授与されました。

なお当日は、別室にて成績優秀者への学生表彰も行われました。

式の終了後は、学生食堂を会場として祝賀会が開催され、医学科・看護学科それぞれの学年担当先生や同窓会の会長からの祝辞、在校生から送辞が贈られ本学の学生としての最後の一時を噛み締めているようでした。



▲医学科



▲祝賀会風景



▲笑顔で卒業生と握手をする吉田学長



▲祝賀会風景



▲看護学科



▲成績優秀者表彰



▼一人ひとりに学位記を授与する吉田学長

## 平成21年度 医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました

平成21年度医学科・看護学科新入生合同研修会が4月13日（月）14日（火）の2日間にわたり実施されました。

一日目は、9時から看護学科棟大講義室に集合し、千石学長補佐の挨拶に始まり、指導教員の紹介等オリエンテーションの後、吉田晃敏学長により「新1年生に望むこと」と題しました講演が行われました。続きまして「新しいカリキュラム履修上の注意点」と題しましたガイダンスが解剖学講座（機能形態学分野）吉田成孝教授並びに看護学講座 望月吉勝教授により行われました。続きまして保健管理センターの川村祐一郎准教授と藤尾美登世保健師により「健康的な学生生活を送るには－ホケカンとどう付き合うか－」と題しました学生生活における注意と保健管理センターの利用方法の説明を受けました。

午後からは、旭川消費者協会の宮嶋睦子氏による「悪質商法の事例と防止策」、本学医学部微生物学講座の若宮伸隆教授による「エイズの現状とその課題について」、同じく内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）鈴木康秋講師（学内）による

「お酒との正しいつきあい方」、最後は内科学講座（循環・呼吸・神経病態内科学分野）長谷部直幸教授による「医学生らしい生活習慣のススメ」の講演を聞き一日目が終了しました。

二日目の午前は、グループ毎に分かれて「コミュニケーションのとりかたについて」、「どのような医療従事者を目指したいか」という課題についての討論とグループ代表による発表会が行われました。最初はぎこちなかった討論も時間が経つにつれて真剣さを増し白熱した意見を戦わせるほどになりました。また、発表にあたっては、ここぞとばかりに流暢なスピーチで会場を沸かせてくれたり、身振り手振りの寸劇を交えた発表があったり、またイラストなどに隠れた才能を発揮したりと驚かされる場面が多々ありました。

午後からは、グループ毎に分かれて救急医学講座 藤田 智准教授の指導の下に先輩学生や卒業生からの救急蘇生実習と旭川ろうあ協会のろう講師により手話の講習を受け、ぎこちない動きの中にも医療現場に携わる道を選んだ者として、雰囲気十分に味わったようでした。



▲吉田学長から新入生へのメッセージ



▲保健管理センターからの大事なお話



▲討論発表の感想を話す先生たち

▶ 討論発表風景



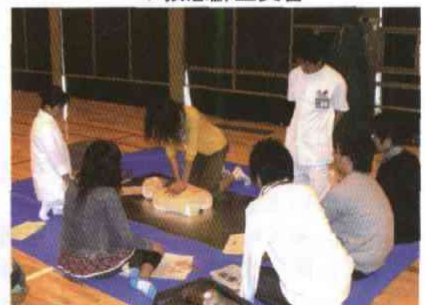
▼ 討論発表中??

◀ これが、手話です?



▼ 手話の講習

▼ 救急蘇生実習



## 教員の異動

H21.3.31	辞職	医学部内科学講座（病態代謝内科学分野）	准教授	伊藤博史
H21.3.31	辞職	医学部産婦人科学講座	准教授	山下剛
H21.3.31	辞職	病院泌尿器科	講師	奥山光彦
H21.3.31	辞職	病院耳鼻咽喉科	講師	坂東伸幸
H21.3.31	辞職	病院麻酔科蘇生科	講師	藤本一弘
H21.3.31	辞職	病院理学療法部	講師	島崎俊司
H21.3.31	定年退職	医学部病理学講座（腫瘍病理分野）	教授	小川勝洋
H21.3.31	定年退職	医学部外科学講座（消化器病態外科学分野）	教授	葛西眞一
H21.3.31	定年退職	医学部脳神経外科学講座	教授	田中達也
H21.3.31	定年退職	医学部臨床検査医学講座	講師	林由紀子
H21.4.1	昇任	医学部内科学講座（病態代謝内科学分野）	講師	安孫子亜津子
H21.4.1	昇任	病院泌尿器科	講師	岩田達也
H21.4.1	昇任	病院耳鼻咽喉科	講師	國部勇
H21.4.1	昇任	医学部産婦人科学講座	講師	片山英人
H21.4.1	採用	医学部看護学講座	教授	稲葉佳江
H21.4.1	採用	医学部法医学講座	准教授	間瀬田千香咲
H21.4.1	採用	医学部看護学講座	准教授	濱田珠美

## 医大祭2009のご案内

旭川医科大学大学祭実行委員会

実行委員長 多田裕樹



来る6月12(金)～14(日)に医大祭が開催されます。

今年の医大祭のテーマは、「SHOW-招・笑・匠・翔-」です。

SHOWつまり「見せる」という意味で旭川医大を、我々医大生を見ていただくということを大筋に、4つの副題に今年の医大祭

への願いを込めました。

「招」医大祭は地域の皆様と医大、そして我々医大生が触れ合うことのできる大きなチャンスです。なるべくたくさんの方々にご来場いただき、医大、医大生との触れ合いの場としていきたいと思ひます。

「笑」今年も、部活動などの団体で運営する模擬店や、芸人さんをお呼びしてお笑いライブ、著名人による講演会、そして例年好評をいただいていますフリーマーケットやゲーム大会といった様々なイベントをご用意しております。堅苦しいことは置いておいて、まずは医大祭という祭りを楽しんで行っていただきたいと思ひます。

「匠」多くの人々にとって、患者としての場面を除けば、医学を感じる機会はその多くはないのでしょうか。しかしこの医大祭という機会を通し

て、僕らの学ぶ医学を寄り近くに感じていただけるような場としていきたいと思ひます。

「翔」地域と医大とのつながりをこの医大祭で共に感じ、考え、今後の医療がさらに地域に近づいたものに発展して行ってほしいと思ひます。

これら4つの願いがかなえられるような医大祭になればと考え、テーマとしました。

例年、地域の皆様のお力添えもあり、大盛況の医大祭ですが、今年もたくさんのご協力を得て開催へと動き出しております。

訪れたすべての方に、楽しく、有意義なひと時を過ごしていただけるよう、スタッフ一同、気合を入れて準備してまいりますので、是非週末は医大祭へお越しください。

